

訪中団の魅力を語ろう!

～中国からアジアが、そして日本が見えてくる～

大阪同友会に訪中団があるのをご存知ですか? 中国に進出している会員企業の訪問、現地企業の視察、もちろん異文化交流も。今年は11月5日(水)～9日(日)の日程で深圳・香港方面を企画しています。

毎年必ず参加する方、社員さんと一緒に参加する方、いまは中国ビジネスをしていなくても将来の布石としている方…。過去の参加者からの声をまとめました。

■ 居相 浩介 さん アペル(株)

私は3年前、初めて義烏・蘇州への訪中団に参加しました。一度参加して、中国ってどんな所か体験してみようという軽い気持ちでしたが、買付ける店の数の多さ、開発区主催の式典の規模の大きさに圧倒されました。その後、上海マートで展示会出展、内陸の武漢への訪問、台風による飛行機の欠航など、一人では心細くて、なかなか体験できないことをいっぱい経験出来ました。おかげで、今では中国の地名を聞いても、耳を閉じないで、しっかり話を聞くことが出来るようになりました。訪中団で貴重な経験を積みに行きましょう。

■ 山岡 和美 さん (株)リバーフィールド

昨年、広報の取材をさせていただいた樋爪さんのご縁で日中経済交流研究会の例会に参加、ちょうどMK会で“日本と海外の展示会の違い”についてみんなで考えていたこともあり、いっそのこと上海の展示会に出よう!と参加したのが訪中団でした。異業種の方々とのお道中で一緒に体験したこと、中国から見た日本を考えることでの気づきがあり、何より大好きな中国の人が増えたことと風変わりな仲間ができたこと。それが私にとっての訪中団の魅力です。

■ 大山 武久 さん 大山印刷(株)

上海万博が開催された2010年に初参加した時は、中国で見るもの食べるもの匂うものすべてが刺激的で、国内では気づかないことをいっぱい経験できました。しかし、訪中団の真の姿は、同行している会員との語り合いや、日常業務から離れ自分自身と向き合う時間がたっぷりあることです。つまり、指針セミナー、グループ討論、車座や懇親会の要素にあふれているということです。このことが欠かさずに参加する理由です。



武漢の大学生と▲
記念撮影



◀企業訪問

■ 中本 久美 さん (株)インターフォワードシステムズ

3年前から社員を同行させ、社員教育の一環に活用させていただいています。弊社の経営理念には「世界の懸け橋になる」という文言がありますが、実際に外国に行くことはなく、輸出入される貨物を見ることもほとんどありません。日常は書類を預かってそれを基に申告書を作成しています。そのため、懸け橋という理念は忘れがちになります。訪中団の見学コースだけでなく無理のない範囲内で弊社のお取引様の工場を見学させていただき外国での製造の現場を見せていただくことで、荷主さんの思いを汲み取ることができ、その思いに寄り添った手続ができるようになります。参加した社員からの感想もしっかりそのあたりのことが書かれています。毎年1～2名を同行させるのが精一杯ですが、今後も続けていきたいと考えています。こんなことができるのも暖かく受け入れてくださる同友会ならではの感謝しています。

訪中団には大阪同友会から支部をまたいで多くの参加者が集います。新たな出会いの場、気づきの場でもあります。まるで大人の修学旅行。皆様のご参加をお待ちします!

(今月の会報に2014年度訪中団の募集要項が同封されています。ぜひご覧ください。)

日中経済交流研究会 広報委員会
まとめ 坂元 正三 坂元鋼材(株)